新編金瓶梅 十集 上帙 上

曲亭馬琴作

一陽齋豐國画

へ13
3724
10

門へ13
3724

新編金瓶梅第十集小序

物始あれば必終あり。年の始の門松冬の終の煤掃竹を涯りとし櫻咲野の花蹤に紅葉枯る山の毛氈と終りとし酒に礼ふ始りて乱ふ終り色に惑ひ始りて別ふ終る稚子毎の竹馬に老ての後の杖を終りとし紅顔なる新婦に雪の白髪の岳母と終りとし浮世に走馬燈の輪廻りて畫ることゝ只ただ埋りのみならず善悪応報の虚しからぬ亦環の造るが如し。一善進めば一悪退く便是正路なり。倘悪人時を得て行いをことゝあれば善者隠れざることなし。此は是邪徑に猶勃風猛雨の五穀を破り蟑氣毒水の魚鼈を害ふと亦何ぞ異なるべき然もとも天運に路ふ復りて日月隈なく照らさば悪梶亡びて善人栄え其名高らから世ふ貽りて後車の鑒ふ做さる者彼西門屋啓十郎、呉金印、蓮花、幾層の五人一旦不義の富を做せるも大原武二郎武松の孝、侠義我勇の大刀風ふ共に盡さる大團圓まで知音れあふ中絶をなしふ今や發兄の時至りぬとそ甘泉堂の求るまゝ十集揃の全書となり始より終りまでを作者の用心並て拍掌驚奇せざるもなくいとの書の終りを亦始より正木の夢繰り返しを長く久しく世の看官ふ弁る幸あれとて前勝を寿ぐの筆を代書ふ任せて序を。

弘化　紀元智良辰稿本方成
四年丁未春正月吉日發

曲亭馬琴重題

春の貝第一

梅見客

苞屋

亀戸乃蜆とのれ

直木直平

大原夢松

横車牛八

秋の貝 第三

蛤を

月待ち

宿や捕のろ

鬼柳八角

冬の貝 第四

今買ひ

牡蠣を

紙ひろ

薄氷

鼻嵐

豚六

牟尼

無三太

春の貝 第五

貝殻の花散る

蜜や打

女僧陸水

沙弥白水

松

と
木

直
松
角

松
上
陸
呉
白
水

牛
角
豚

酒
松

松
実

槍
浮
寒
そ

心
意
槍

寒

意

寒
瓶
冷

中
中

馬琴作

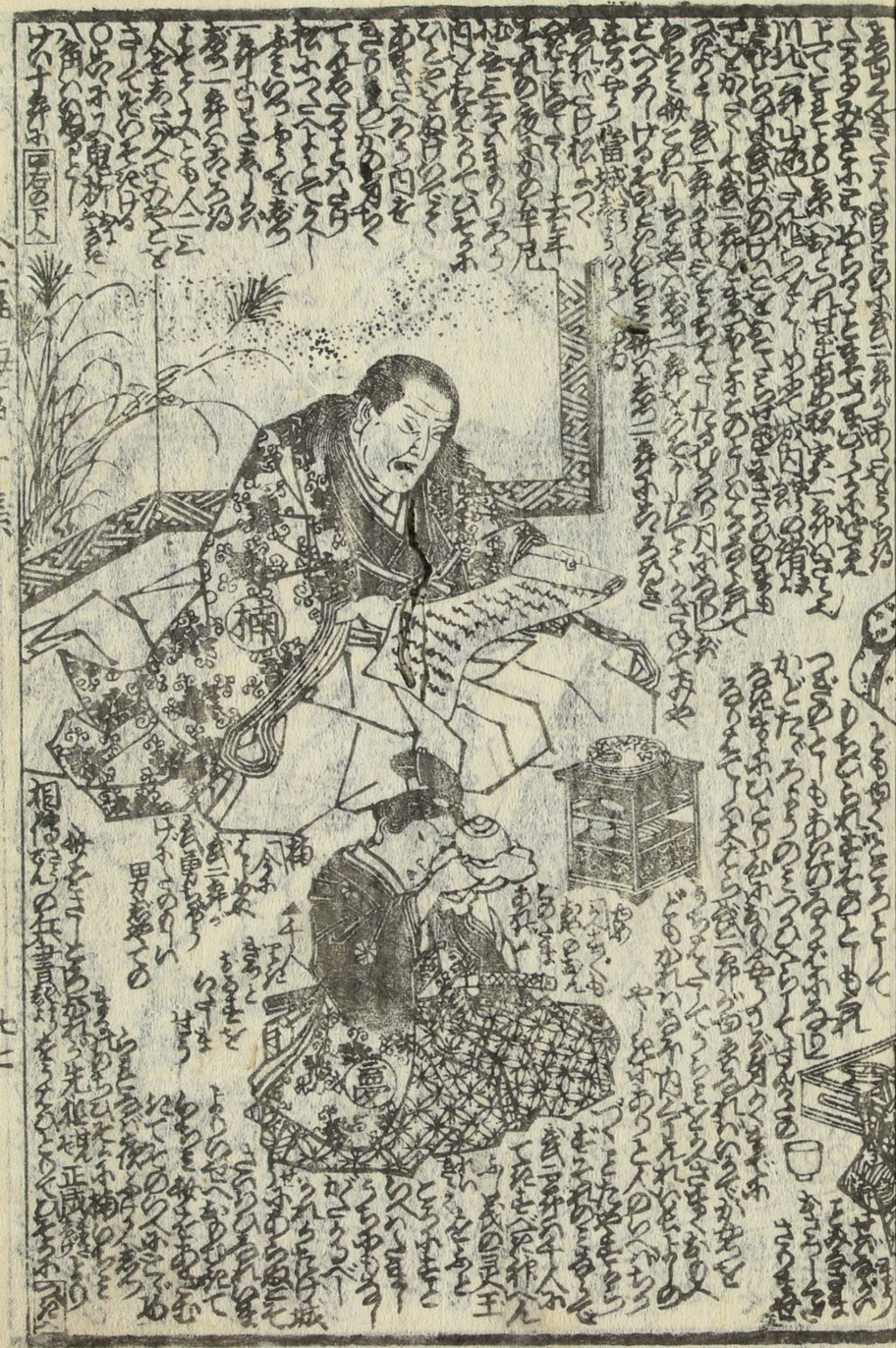
國貞改
豊國画

浄書金川

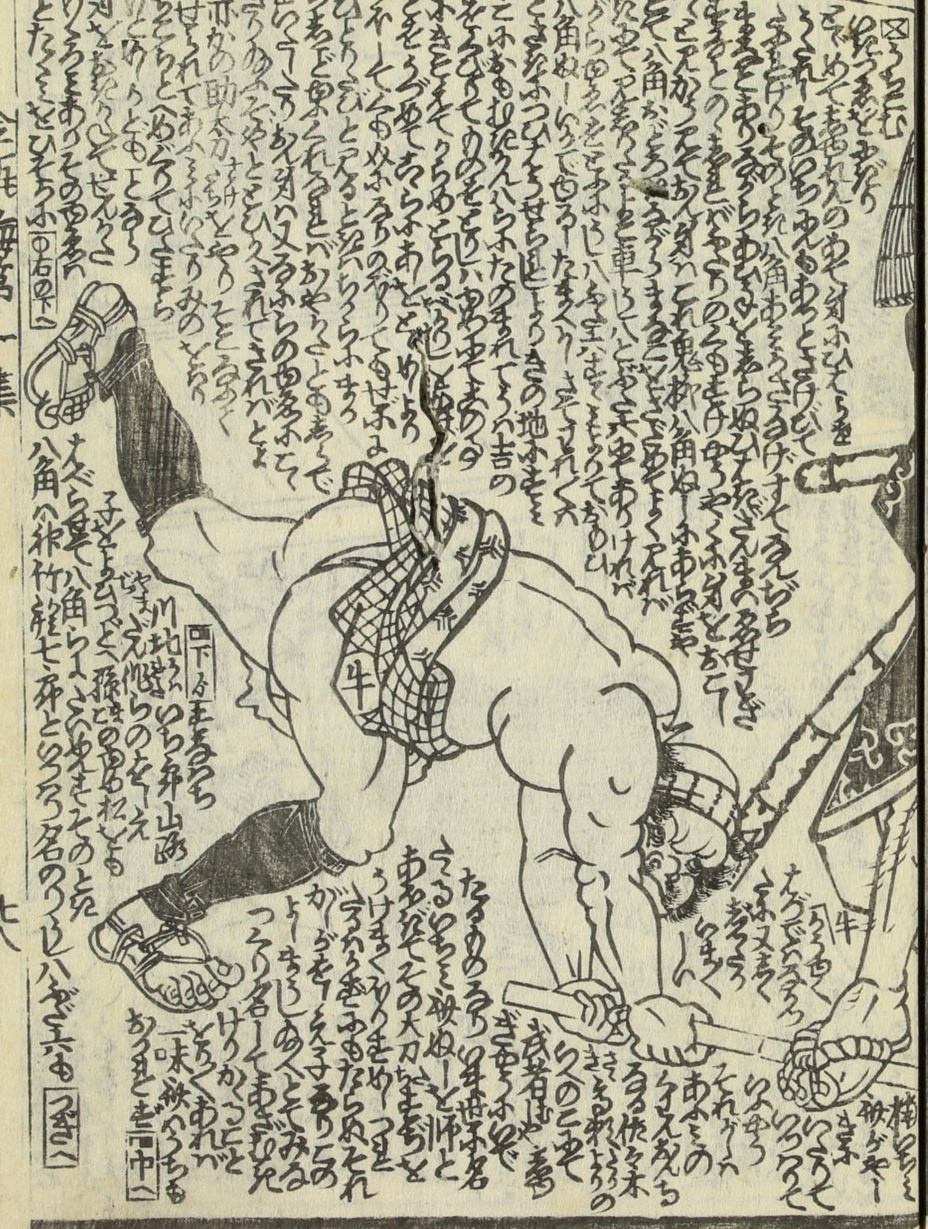
五のつゞき
四の下へ
四の上へ
蓮虫の圖

武
俳
四の中へ生
四の下へ

千
石
壹


柳
壹

角
角


牛
牛

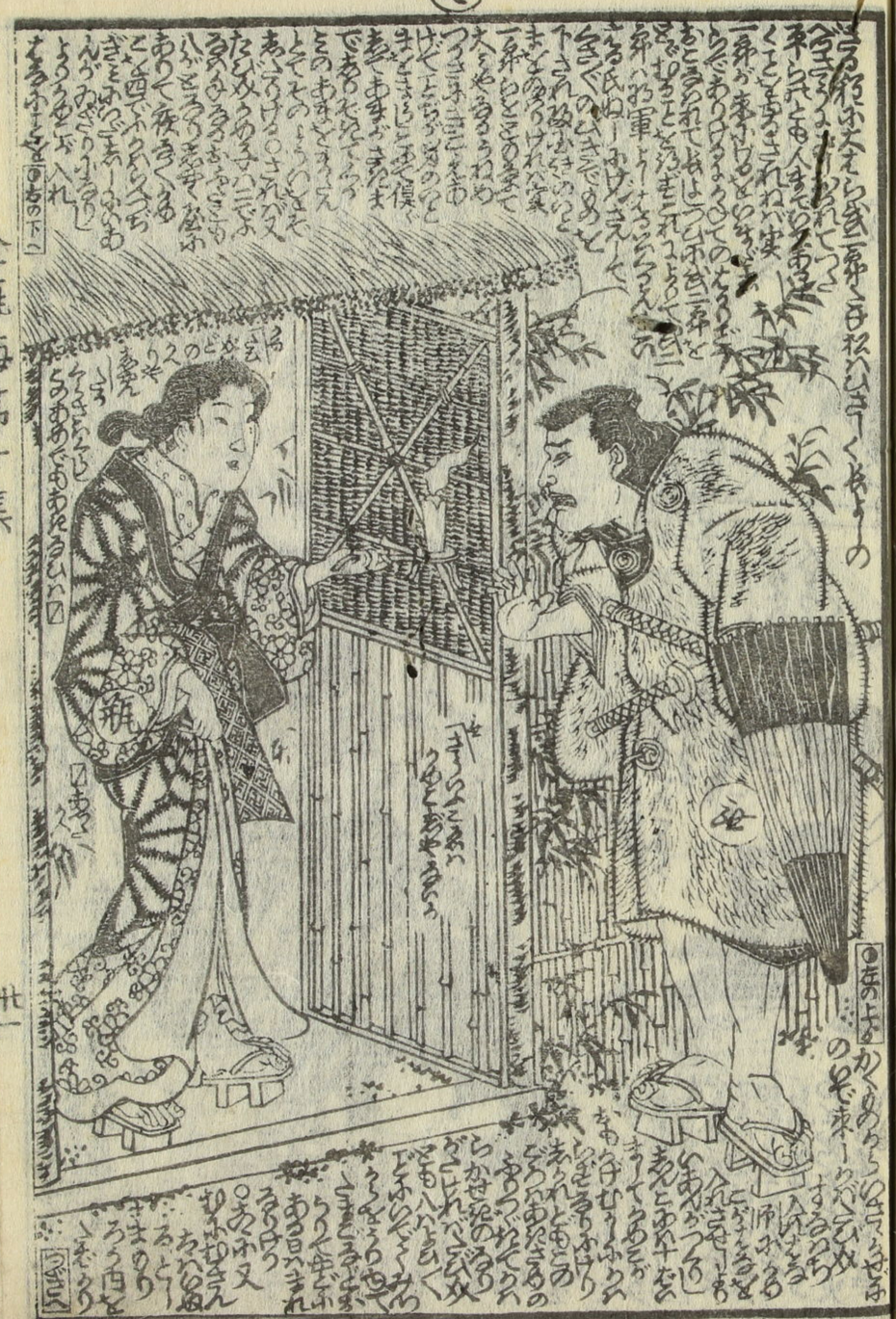
柳
角
山
牛

夢
豚

夢
牛

角
豚
石

実
長
酒


瓶
梅

諸行無常

是生滅法

武太郎

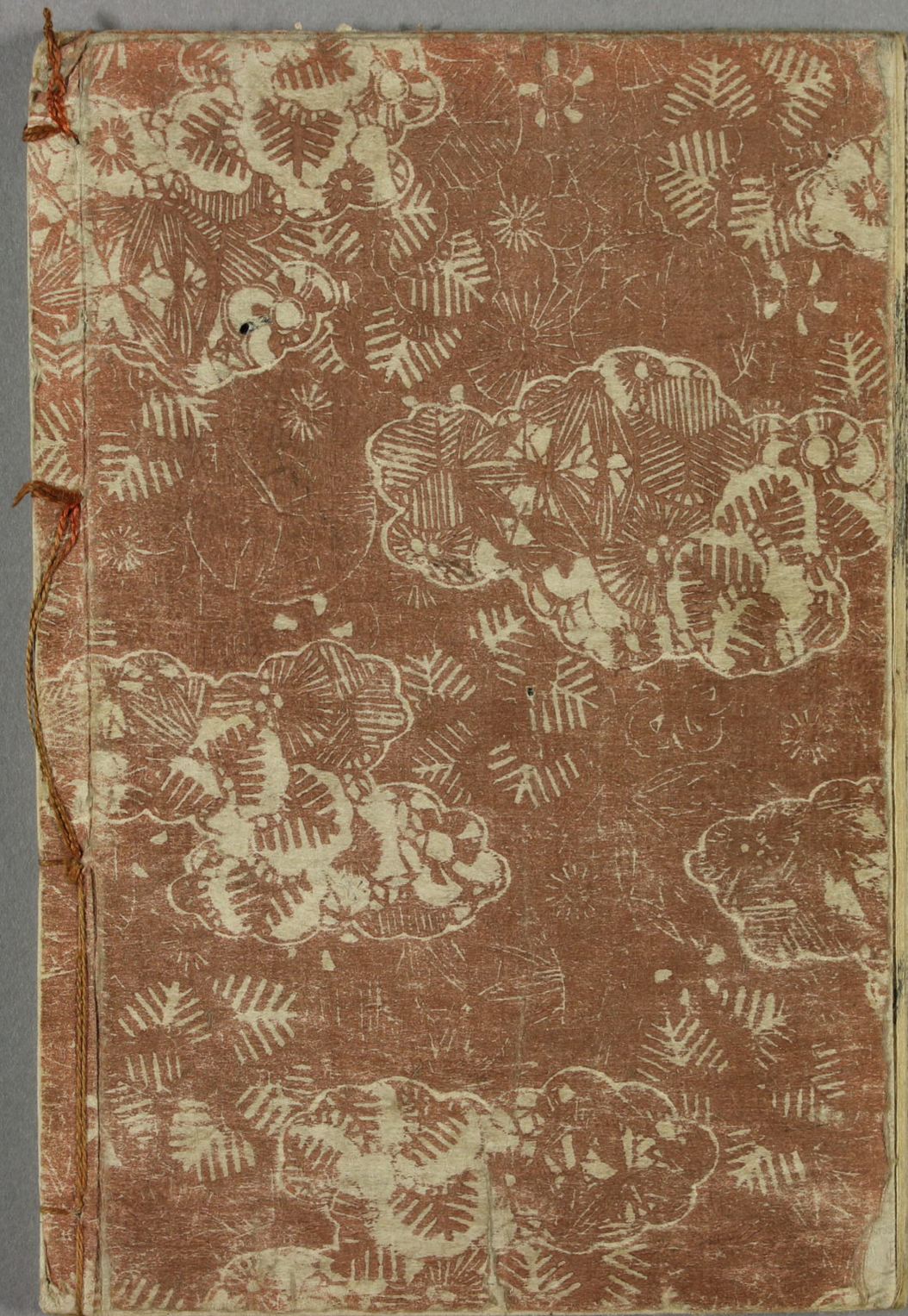
実
千
と
石

金用利第一番

奉納 陰陽小龍王權現

馬琴作

後豐國画

代筆 路斎稿

淨書 谷斎